

令和7年度 北区 特色ある区づくり予算区企画事業 自治協議会委員からの提案一覧

	提案者	地域課題	提案・アイデア
1	三浦 委員	世代間交流が減っていて、どの世代も孤立しやすい傾向である。支え合いの意識を醸成することで、世代を越えて助け合い、交流できる地域づくりを目指す必要がある。	支え合いが表現されたフォトコンテストを実施 ・地元や身近な支え合い、助け合いについての写真を募集 ・フォトコンテスト優秀賞1位から3位を表彰し、景品を用意 ・日めくりカレンダーを作成
2	前田 委員	十二潟では、夏季にヒシが湖面を覆い隠すように繁殖するため、例年除去作業を実施していた。令和5年度から今年度（8月現在）は、ヒシが激減する異変が起きている。	十二潟の水生植物の生態異変の原因調査と改善計画策定 ・上池、中池、下池の土砂の堆積状況調査 ・湧き水の減少と潟内流量の減少に伴う水質悪化等調査 ・水田除草剤との関係調査
3	前田 委員	十二潟は新潟平野の地質形成期に大きく寄与した阿賀野川水系に残る三日月湖であり、新潟市の自然遺産として後世に残す意義は大きい。	阿賀野川の十二潟(三日月湖)公園化整備計画の策定 (1) 当面の施設整備等の提案 ・木製の「十二潟(古阿賀)の歴史と植生」プレートの更新 ・水生植物他の観察用栈橋の全面改修 ・旧仮設栈橋(ドラム缶使用)の撤去 ・屋根付き観察小屋・休憩ベンチ・テーブルの設置 ・歴史説明資料設置 ・県指定絶滅危惧種他の水生生物の保護増殖区域の確保 ・トイレの設置、駐車場の整備 ・観察小船の保管場所確保 (2) 最終の施設整備等の提案 ・十二潟の水辺の整備(漂着ゴミの撤去や一部ヨシを伐採し、昭和30年代の水辺を再現) ・十二潟の上池・中池・下池周辺に遊歩道を整備 ・下池湖畔高台に公園としての観察・休憩施設、阿賀野川・十二潟歴史文化展示施設、トイレ、駐車場を整備

令和7年度 北区 特色ある区づくり予算区企画事業 自治協議会委員からの提案一覧

4	前田 委員	除雪作業実施事業者間に技量の差がある。	北区除雪体制整備三カ年計画(除雪「苦情」低減化計画)の策定 (除雪作業実施者の研修と評価制度を主とする) ・事前に実技研修を実施(豪雪地域の行政職員等を講師に) ・除雪時の苦情内容と件数を記録・把握し、研修参加内容等もふまえて評価し、苦情件数の少ない事業者を顕彰・公表 ・研修・評価制度は3年毎に見直しを行う
5	前田 委員	岡方地区では小中学校のあり方について検討している。その際、地域の災害避難所の存続等が課題となる。他にも、中央環状道路の遅れ、地域に2カ所ある保育園の維持、農業事業者統合法人化などの課題がある。	岡方地区の地域活性化総合計画の策定 ・北区各地区の課題であるため、モデル事業として地域活性化総合計画の策定を提案するもの
6	佐久間 委員	北区は市内でも特に少子高齢化の進んでいる区で、15年後は子どもの数が現在の53%になるとのデータがある。そのような中でも、若年妊娠・高齢出産・不妊症など性に関する問題や虐待事案、子どもにおいては不登校やネット依存等の問題が増えている。 また、北区は成人を対象にした健康診断の受診率が低い上に喫煙や飲酒習慣のある人が多い。	プレコンセプションケアの推進 ・若い世代の健康を増進し、より質の高い生活を実現してもらうことで、その世代のみならず、次世代の子どもたちをより健康的に ・『若いから無理をしても大丈夫』ではなく『若いからと油断せず、健康を促進するべき』という認識をもってもらう ・自ら健康管理できるようになってもらうため、小学校・中学校・高校等で、専門家による講演会や、子どもたちも含めたパネルディスカッションを行う 思春期の心と体の健康教育 ・中学校・高校で、助産師などの専門家による性教育や命の安全教育を行い、正しい知識を身に着け、他者への思いやりの気持ちを育み、命の大切さや自他を大切にすることの大切さを高める ・悩んだり、困ったときは相談するという認識をもってもらう

令和7年度 北区 特色ある区づくり予算区企画事業 自治協議会委員からの提案一覧

7	佐久間 委員	不登校やネット依存、いじめなど、児童期や思春期の子どもと保護者が抱える課題が深刻化している。親に十分な愛情を注いでもらえず、愛着障害により問題行動を起こす子どもも増えている。また、子育ての不安感や負担感を感じている保護者も多い。 地域で安心して子育てできるよう、妊娠期から親子を支援する体制の強化が、これまで以上に必要である。	親子が気軽に参加できる講演会・相談会や遊びの会を開催 ・課題解決に向けてのきっかけとする ・親も親として育つことを支え、楽しさを感じながら安心して子育てできるよう支援を行う 乳幼児健診や保育園・こども園等で、養育におけるアタッチメントの重要性について、保護者に継続的に伝えていく取り組みを行う ・3歳までは特に『自分は大切にされている』という気持ちを育み、信頼感が育ち、深い人間関係を築くことに繋がる時期であるため、虐待予防や子ども自身の自立、自己肯定感向上の支援を行う
---	-----------	---	--